

## 幼児の運動・運動遊びと身体活動性に関する研究 —保護者の関わりを視点として—

栗原 淳<sup>1)</sup> 堤 公一<sup>2)</sup> 福本敏雄<sup>1)</sup> 近藤幸子<sup>3)</sup>  
有蘭由紀子<sup>3)</sup> 山口正子<sup>3)</sup> 片倉知子<sup>3)</sup> 末次多喜子<sup>3)</sup>

Study of Physical Activity and Physical Play in Children  
"Point of view at Parents Role"

Atsushi KURIHARA Kouichi TSUTSUMI Toshio FUKUMOTO  
Sachiko KONDOU Yukiko ARIZONO Masako YAMAGUCHI  
Tomoko KATAKURA Takiko SUETSUGU

### I はじめに

近年,子どもたちを取り囲む社会的環境の変化によって,幼児期からの遊びの質的变化や,特に体を動かす機会が少なくなったことに起因すると考えられる体力の低下など様々な健康上の問題が発生しており,その問題解決を図る一助として運動・スポーツのもつ意義は大きい。また,運動・スポーツの必要性や重要性については,健康・体力の維持・増進のみならず,生涯にわたっての生きがい形成(人格形成)といった側面からも,運動・スポーツを日常生活に定着させ,文化的行動(学習)過程の総体として捉える生涯スポーツの観点に立った考え方が望まれている。

とりわけ,小学校や中学校,高等学校の学校体育では,その教育目標において,運動やスポーツを主体的に実践する能力や態度を形成し,生涯を通して運動・スポーツを生活内容として取り入れることのできる子どもを育てることが課題とされている。これらの視点は,「幼児期の運動習慣は,その人の一生の生活を左右する」という武藤ら<sup>(1)</sup>の指摘にもあるように,まさに幼児期からの運動遊びに代表される身体的活動を通して,将来的な運動習慣の獲得,そして生活化が図られるということに他ならない。

特に,幼児教育の目的から考えると,幼児の主体的遊びは教育活動の中心であり,そのほとんどの遊びが幼児個々人の興味・関心によって左右されている。言い換えればその遊びに対する「好き・嫌い」の程度によって,幼児の対象となる遊びの質や量が決定されるといっても過言ではない。つまり幼児期の身体活動性を高めるためには,幼児が「運動遊び好き」であることは最も大切な課題となる。また,幼児の活動的な遊びや運動量には,保護者が運動・スポーツ好きであるかどうかの影響するという吉岡<sup>(2)</sup>の報告からも,この課題を達成するためには保護者の関わりも非常に重要と考えられる。

そこで本研究では,幼児期の運動・運動遊びにおいて,まず保護者がどのような関わりを持っているのかその実態を明らかにすること,そしてその関わり方と幼児の運動・運動遊びとの関連性やその及ぼす影響について検討することを目的とした。

## II 対象と方法

本研究では、佐賀大学文化教育学部附属幼稚園全園児の保護者を対象とした。調査は2000年7月に保護者を対象とした幼児の運動・運動遊びに関わる記名式質問紙を用いて実施した。

質問紙については、クラス担任より各保護者に配布し、1週間後に回収する留置調査法を用いた。調査項目は幼児の運動・運動遊びへの保護者の関わり(参加頻度)、幼児の運動・運動遊びの実態(遊びの志向性①、遊び場所②、遊び方、遊びの相手、運動・スポーツの習い事)について、また、保護者本人の運動・スポーツに対する属性として運動・スポーツの観戦や実施への意識(好意性)と定期的運動・スポーツ実践の有無について回答を求めた。尚、分析対象の詳細を表1に示した。表のn数は欠損値を除いたものである。

分析は、回答から得られた幼児の運動・運動遊びへの保護者の参加形態と各項目間のクロス集計、Pearsonの $\chi^2$ 検定を用いて行った。解析にあたっては、SPSS11.0J統計ソフトを使用した。

幼児の運動・運動遊びへの保護者の参加状況については、平日・休日、及び戸外・室内別に個々の参加度を4件法で評定した。その段階により「いつも参加」「時々参加」に1点、「あまり参加しない」「参加しない」に0点を与え、4項目を合計した参加頻度得点を求め、参加形態の分類を行った。

また、本研究における幼児の身体活動性については、幼児の志向する遊び場所と戸外・室内での遊び方の3項目から、戸外での遊びと動的遊びを好んでしている幼児に身体的な活動性があると推定し、その場合には各項目に1点、室内での遊びと静的遊びを好んでしている幼児に各0点を与え、3項目を合計して幼児の身体活動性得点を求め、身体活動性の分類を行った。

表1 分析対象

|       | 男児 | 女児 | 計  | 保護者 |
|-------|----|----|----|-----|
| 年少クラス | 9  | 10 | 19 | 19  |
| 年中クラス | 15 | 16 | 31 | 31  |
| 年長クラス | 16 | 15 | 31 | 31  |
| 全 体   | 40 | 41 | 81 | 81  |

## III 結果と考察

### 1. 幼児の運動・運動遊びへの保護者の関わりと保護者の属性

#### 1) 保護者の運動・運動遊びへの参加状況と参加形態

##### ① 平日・休日別にみた戸外、室内での参加状況

表2-1, 2, 3, 4は保護者が幼児と一緒に運動や運動遊びを室内や戸外で実施しているかどうかを、平日、休日別に示したものである。

全体的に見ると、室内での運動・運動遊びへの参加状況は、表2-1, 2-2より、「いつも参加している」とした保護者は平日で10.1%、休日で16.9%、「時々参加している」がそれぞれ35.4%、37.7%であった。反対に「参加しない」としたのはいずれも27.8%で、「たまにしか参加しない」を加えると、ほとんど関わりを持たない保護者が平日、休日共に50%を越えていた。クラス別に比較してみると「いつも参加している」割合は年少クラスで平日、休日いずれも26.3%を示し、年中、年長クラスより参加が多かったが有意差は認められなかった。また、平日と休日を比較してもほぼ同様の傾向を示していた。

一方、表2-3、2-4より戸外での運動・運動遊びへの参加状況を全体的にみると、「いつも参加している」のは平日で7.5%、休日で24.7%となり、休日での参加が20%程増加していた。そのために「参加しない」とした保護者は逆に平日の20.0%から休日3.7%へ減少していた。クラス別に比較すると、平日では年長クラスにおいて「いつも参加している」保護者は全くなく、また年中クラスで「時々参加している」のが56.7%となり関わりが他のクラスより20～30%高く、クラスによって平日での戸外遊びの参加状況に有意な差がみられた( $p < 0.05$ )。休日については、「いつも参加している」とした保護者は年少クラスから順に26.3%、29.0%、19.4%となり、各クラスとも平日より10～20%程参加する割合が高くなっていた。また、年少、年中クラスでは「参加しない」とした保護者がなく、「たまにしか参加しない」者もごく少数であった。年長クラスの参加状況が他のクラスと比較してやや低い傾向を示したが、有意差はなかった。

これらのことから、休日を幼児と一緒に戸外で運動や運動遊びをして過ごす保護者は、各クラスとも同様に平日より多くなっていた。休日の関わりが増えることは当然の結果ともいえるが、年少・年中クラスの保護者は特に休日における戸外での幼児との運動や運動遊びを重視し、実践していることは高く評価できよう。

表2-1 平日の室内遊びへの参加

|       | いつも参加 |      | 時々参加 |      | たまに参加 |      | 不参加 |      | 合計 |       |
|-------|-------|------|------|------|-------|------|-----|------|----|-------|
|       | n     | %    | n    | %    | n     | %    | n   | %    | n  | %     |
| 年少クラス | 5     | 26.3 | 4    | 21.1 | 5     | 26.3 | 5   | 26.3 | 19 | 100.0 |
| 年中クラス | 1     | 3.3  | 14   | 46.7 | 6     | 20.0 | 9   | 30.0 | 30 | 100.0 |
| 年長クラス | 2     | 6.7  | 10   | 33.3 | 10    | 33.3 | 8   | 26.7 | 30 | 100.0 |
| 全 体   | 8     | 10.1 | 28   | 35.4 | 21    | 26.6 | 22  | 27.8 | 79 | 100.0 |

表2-2 休日の室内遊びへの参加

|       | いつも参加 |      | 時々参加 |      | たまに参加 |      | 不参加 |      | 合計 |       |
|-------|-------|------|------|------|-------|------|-----|------|----|-------|
|       | n     | %    | n    | %    | n     | %    | n   | %    | n  | %     |
| 年少クラス | 5     | 26.3 | 4    | 21.1 | 5     | 26.3 | 5   | 26.3 | 19 | 100.0 |
| 年中クラス | 4     | 13.8 | 13   | 44.8 | 7     | 24.1 | 5   | 30.0 | 29 | 100.0 |
| 年長クラス | 4     | 13.8 | 12   | 41.4 | 6     | 20.7 | 7   | 26.7 | 29 | 100.0 |
| 全 体   | 13    | 16.9 | 29   | 37.7 | 18    | 23.4 | 17  | 27.8 | 77 | 100.0 |

表2-3 平日の戸外遊びへの参加

|       | いつも参加 |      | 時々参加 |      | たまに参加 |      | 不参加 |      | 合計 |       |
|-------|-------|------|------|------|-------|------|-----|------|----|-------|
|       | n     | %    | n    | %    | n     | %    | n   | %    | n  | %     |
| 年少クラス | 3     | 15.8 | 5    | 26.3 | 9     | 47.4 | 2   | 10.5 | 19 | 100.0 |
| 年中クラス | 3     | 10.0 | 17   | 56.7 | 6     | 20.0 | 4   | 13.3 | 30 | 100.0 |
| 年長クラス | 0     | —    | 10   | 32.3 | 11    | 35.5 | 10  | 32.3 | 31 | 100.0 |
| 全 体   | 6     | 7.5  | 32   | 40.0 | 26    | 32.5 | 16  | 20.0 | 80 | 100.0 |

$p < 0.05$

表2-4 休日の戸外遊びへの参加

|       | いつも参加 |      | 時々参加 |      | たまに参加 |      | 不参加 |     | 合計 |       |
|-------|-------|------|------|------|-------|------|-----|-----|----|-------|
|       | n     | %    | n    | %    | n     | %    | n   | %   | n  | %     |
| 年少クラス | 5     | 26.3 | 11   | 57.9 | 3     | 15.8 | 0   | —   | 19 | 100.0 |
| 年中クラス | 9     | 29.0 | 17   | 54.8 | 5     | 16.1 | 0   | —   | 31 | 100.0 |
| 年長クラス | 6     | 19.4 | 12   | 38.7 | 10    | 32.3 | 3   | 9.7 | 31 | 100.0 |
| 全 体   | 20    | 24.7 | 40   | 49.4 | 18    | 22.2 | 3   | 3.7 | 81 | 100.0 |

## ②参加状況からみた参加頻度得点の分布と参加形態の分類

前述した平日、休日及び、戸外、室内での参加状況から求めた、運動・運動遊びへの参加頻度得点を表3に示した。0点から得点が高くなるにつれ、保護者の運動・運動遊びへの参加頻度が高いことを意味している。

その結果、全く参加をしていない0点が全体で16.9%となり、以下順に1点から4点までそれぞれ14.3%、29.9%、10.4%、28.6%となっていた。クラス別では、年長クラスの0点が27.6%で他のクラスよりも20%近く多くなっていた。また、年中クラスにおいて参加頻度の高い4点が41.1%となり、他のクラスよりも20%近く多くなっていたが、得点の分布に有意差は認められず、各クラスとも同様の傾向を示していた。

参加頻度を分類するために各得点について説明すると、0点は、幼児の運動・運動遊びに対して保護者の態度、意識を肯定的に捉えると、運動・運動遊びの必要性や大切さを理解し、関心を持っているとしても、仕事の多忙さや健康上の問題、家庭の諸事情等により幼児と関われる時間が確保できないなど、関わりを抑制する何らかの理由によって関与できない状況にあると考えられる。逆に否定的な側面からは、幼児に対しての触れ合う態度が乏しいか、その意識が極めて希薄な状態にあることが推測できるが、いずれにしろ不参加を呈するグループといえる。1点・2点も0点と同様、様々な状況が考えられるが、平日には参加できない状況にあっても、休日を中心として運動・運動遊びを行っているグループ、そして3点・4点は平日であっても積極的に運動・運動遊びへの関わりをもっているグループと推測できる。

今回の調査から各グループの詳細な解釈には限界があるが、個々の参加頻度得点の特徴を踏まえ、0点を不参加型、1～2点を休日参加型、3～4点を積極参加型と参加形態で区分し、幼児の運動・運動遊びに保護者が与える影響の分析を進める一つの視点とした。

尚、各参加形態による分類の内訳を表4に示した。全体では不参加型16.9%、休日参加型と積極参加型がそれぞれ44.2%、39.0%と多くなっていた。年長クラスの不参加型が他のクラスより17%程多かったが、有意差はなく各クラスとも同様の傾向であった。

表3 運動・運動遊びへの参加頻度得点

|       | 0点 |      | 1点 |      | 2点 |      | 3点 |      | 4点 |      | 合計 |       |
|-------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|-------|
|       | n  | %    | n  | %    | n  | %    | n  | %    | n  | %    | n  | %     |
| 年少クラス | 2  | 10.5 | 4  | 21.1 | 5  | 26.3 | 4  | 21.1 | 4  | 21.1 | 19 | 100.0 |
| 年中クラス | 3  | 10.3 | 3  | 10.3 | 10 | 34.5 | 1  | 3.4  | 12 | 41.1 | 29 | 100.0 |
| 年長クラス | 8  | 27.6 | 4  | 13.8 | 8  | 27.6 | 3  | 10.3 | 6  | 20.7 | 29 | 100.0 |
| 全 体   | 13 | 16.9 | 11 | 14.3 | 23 | 29.9 | 8  | 10.4 | 22 | 28.6 | 77 | 100.0 |

表4 運動・運動遊びへの参加形態の内訳

|       | 不参加型 |      | 休日参加型 |      | 積極参加型 |      | 合 計 |       |
|-------|------|------|-------|------|-------|------|-----|-------|
|       | n    | %    | n     | %    | n     | %    | n   | %     |
| 年少クラス | 2    | 10.5 | 9     | 47.4 | 8     | 42.2 | 19  | 100.0 |
| 年中クラス | 3    | 10.3 | 13    | 44.8 | 13    | 44.5 | 29  | 100.0 |
| 年長クラス | 8    | 27.6 | 12    | 41.4 | 9     | 31.0 | 29  | 100.0 |
| 全 体   | 13   | 16.9 | 34    | 44.2 | 30    | 39.0 | 77  | 100.0 |

## 2)保護者自身の運動・スポーツに対する属性

### ①運動・スポーツの観戦及び実施意識

表5-1 は運動・スポーツ観戦についての保護者の意識を、幼児のクラス別に示したものである。その結果、運動・スポーツ観戦に「非好意的」な意識を示した保護者は全体で11.1%、「好意的」な意識は23.5%で好意的意識の方が多い傾向にあった。また、6割程度が「普通」と意識していた。クラス別の比較では年少クラスにおいて「好意的」意識を示した保護者は31.6%で、年中クラス、年長クラスよりもそれぞれ10%、20%ほど高くなっていたが、有意な差はなく運動・スポーツ観戦の志向性は各クラスの保護者において同様の傾向を示していた。

表5-2 は、運動・スポーツ実施への意識を、幼児のクラス別に示したものである。運動・スポーツ実施に「非好意的」な意識を示したのは、全体で16.0%、「好意的」意識28.4%となり、観戦意識の志向性と同様、好意的な意識の方が多くなっていた。また、ほぼ半数が「普通」と意識していた。クラス別に比較すると年少クラスでは「普通」に大部分集中していたが(73.7%)、年中クラスでは「好意的」及び「普通」の意識にそれぞれ41.9%、45.2%と2分されていた。特に、年中児クラスにおいて好意的なものが41.9%と高かったが、クラス間に有意差はなく運動・スポーツ観戦の志向性は各クラスの保護者において同様の傾向を示していた。

表5-1 保護者の運動・スポーツ観戦意識

|       | 好意的 |      | 普 通 |      | 非好意的 |      | 合 計 |       |
|-------|-----|------|-----|------|------|------|-----|-------|
|       | n   | %    | n   | %    | n    | %    | n   | %     |
| 年少クラス | 6   | 31.6 | 11  | 57.9 | 2    | 10.9 | 19  | 100.0 |
| 年中クラス | 9   | 20.9 | 18  | 58.1 | 4    | 12.9 | 31  | 100.0 |
| 年長クラス | 4   | 12.9 | 23  | 74.2 | 4    | 12.4 | 31  | 100.0 |
| 全 体   | 19  | 23.5 | 52  | 64.2 | 10   | 11.1 | 81  | 100.0 |

表5-2 保護者の運動・スポーツ実施意識

|       | 好意的 |      | 普 通 |      | 非好意的 |      | 合 計 |       |
|-------|-----|------|-----|------|------|------|-----|-------|
|       | n   | %    | n   | %    | n    | %    | n   | %     |
| 年少クラス | 3   | 15.8 | 14  | 73.7 | 2    | 10.5 | 19  | 100.0 |
| 年中クラス | 13  | 41.9 | 14  | 45.2 | 4    | 12.9 | 31  | 100.0 |
| 年長クラス | 7   | 22.6 | 17  | 54.8 | 6    | 22.6 | 31  | 100.0 |
| 全 体   | 23  | 28.4 | 45  | 55.6 | 12   | 16.0 | 81  | 100.0 |

## ②定期的運動・スポーツの実施

表6より,保護者が定期的に運動・スポーツを実施しているのは,全体で30.9%であった。保護者の年齢は30代,40代が中心であり,その年齢層から考えると一般的な実施率が,それよりもやや高い実施率と言えよう。各クラス別に見た実施状況では,年長クラスにおいて54.8%と半数以上が定期的な実践をしており,その実施率はかなり高くクラス間の回答に有意差が見られた( $p<0.01$ )。

年中クラスでは,運動・スポーツに対する好意的意識が高かったのとは逆に,実施率は9.7%と低くなっていた。この結果については幼児期における親の育児への関わりを時間的量で判断すると,年齢の低い幼児をもつ保護者の自由時間が少なくなるのは当然であり,年少,年中クラスでの実施率に影響した可能性も考えられるが,年長クラスの実施率の高さが特異的と判断すべきであろう。

表6 定期的運動・スポーツ実施率

|       | 実施群 |      | 非実施群 |      | 合 計 |       |
|-------|-----|------|------|------|-----|-------|
|       | n   | %    | n    | %    | n   | %     |
| 年少クラス | 5   | 26.3 | 14   | 73.7 | 19  | 100.0 |
| 年中クラス | 3   | 9.7  | 28   | 90.3 | 31  | 100.0 |
| 年長クラス | 17  | 54.8 | 14   | 45.2 | 31  | 100.0 |
| 全 体   | 25  | 30.9 | 56   | 69.1 | 81  | 100.0 |

$p<0.01$

## 3)保護者の参加形態と属性の関係

幼児の運動・運動遊びへの保護者の関わり方によって分類された「不参加型」「休日参加型」「積極参加型」の各参加形態と,保護者本人の運動・スポーツに対する属性との関係について検討を試みた。これは,保護者の運動・スポーツに対する好意的・非好意的意識や定期的運動・スポーツ実践の有無といった意識形態や行動様式が,子どもの運動や運動遊びに影響を及ぼしているかどうか,あるいは個々の参加形態における保護者の特徴が存在するのかどうかを検証しようとしたものである。

## ①参加形態と運動・スポーツの観戦及び,実施意識

表7-1 は,参加形態と保護者の運動・スポーツ観戦意識の関係を示した。その結果,好意的意識は各参加形態ごとに「不参加型」7.7%,「休日参加型」20.6%,「積極参加型」30.0%となり,「不参加型」と「積極参加型」を比較すると,積極的に幼児の遊びに参加している方が全く参加しないよりも好意的意識が20%程高くなったが有意差は認められなかった。非好意的意識については,同様の傾向を示した。

また,表7-2 より,参加形態と保護者の運動・スポーツ実施の意識との関係は,好意的意識について各参加形態ごとに「不参加型」23.1%,「休日参加型」20.6%,「積極参加型」33.3%となり,「不参加型」と「積極参加型」を比較すると,積極的に幼児の遊びに参加している方が全く参加しないよりも好意的意識が10%程度高くなかった。なおかつ非好意的意識については,「不参加型」が38.5%,「休日参加型」17.6%,「積極参加型」6.7%で,関わり方が多くなるほど非好意的意識は少なくなっており,有意差が認められた( $p<0.05$ )。つまり,保護者本人の運動・スポーツの実施意識と幼児の運動・運動遊びへの関わりとに関連が認められた。

表7-1 参加形態と運動・スポーツの観戦意識との関係

|       | 好意的 |      | 普 通 |      | 非好意的 |      | 合 計 |       |
|-------|-----|------|-----|------|------|------|-----|-------|
|       | n   | %    | n   | %    | n    | %    | n   | %     |
| 不参加型  | 1   | 7.7  | 10  | 76.9 | 2    | 15.4 | 13  | 100.0 |
| 休日参加型 | 7   | 20.6 | 23  | 67.6 | 4    | 11.8 | 34  | 100.0 |
| 積極参加型 | 9   | 30.0 | 17  | 56.7 | 4    | 13.3 | 30  | 100.0 |
| 全 体   | 17  | 22.1 | 50  | 64.9 | 10   | 13.3 | 77  | 100.0 |

表7-2 参加形態と運動・スポーツの実施意識との関係

|       | 好意的 |      | 普 通 |      | 非好意的 |      | 合 計 |       |
|-------|-----|------|-----|------|------|------|-----|-------|
|       | n   | %    | n   | %    | n    | %    | n   | %     |
| 不参加型  | 3   | 23.1 | 5   | 38.5 | 5    | 38.5 | 13  | 100.0 |
| 休日参加型 | 7   | 20.6 | 21  | 61.8 | 6    | 17.6 | 34  | 100.0 |
| 積極参加型 | 10  | 33.3 | 18  | 60.0 | 2    | 6.7  | 30  | 100.0 |
| 全 体   | 20  | 26.1 | 44  | 57.1 | 13   | 16.9 | 77  | 100.0 |

$p < 0.05$

## ②参加形態と定期的運動・スポーツ実施との関係

表8 は、参加形態と保護者の定期的運動・スポーツ実施との関係を示した。その結果、定期的に実施している割合は、「不参加型」23.1%、「休日参加型」23.5%、「積極参加型」40.0%となり、「積極参加型」の保護者が他の参加形態よりも20%近く多くなっていたが、有意差は認められなかった。つまり、保護者本人が運動・スポーツを習慣的にしているかどうかは、幼児の運動・運動遊びへの関わりとは関連が認められなかった。

表8 参加形態と定期的運動・スポーツの実践との関係

|       | 実 施 |      | 非 実 施 |      | 合 計 |       |
|-------|-----|------|-------|------|-----|-------|
|       | n   | %    | n     | %    | n   | %     |
| 不参加型  | 3   | 23.1 | 10    | 76.9 | 13  | 100.0 |
| 休日参加型 | 8   | 23.5 | 26    | 76.5 | 34  | 100.0 |
| 積極参加型 | 12  | 40.0 | 18    | 60.0 | 30  | 100.0 |
| 全 体   | 23  | 29.9 | 54    | 70.1 | 77  | 100.0 |

以上より、参加形態別に保護者の属性を検討してみたが、運動・スポーツの実施意識に違いが認められた。また、個々の参加形態の特徴も示唆されたが有意性は確認できなかった。

## 2. 幼児の運動・運動遊びの実態

### 1) 遊び場所と遊び方の志向性

表9 は、幼児が「戸外遊び」「室内遊び」のどちらを志向しているかをクラス別にみたものである。

年中・年長児はその志向性がほぼ半分に別れたが、年少児では「戸外遊び」が33.3%、「室内遊び」が66.7%となり、戸外よりも室内での遊びをより志向していたが、クラス間に有意差は認められなかった。

一般的に戸外での遊びの種類や遊び方から考えると、主に身体的な活動を伴うものが多く、戸外遊びを志向する幼児の方が身体活動性は高いと判断できよう。

幼児が「戸外」または「室内」において、体を動かす「動的遊び」と、それとは対照的に体を動かさない「静的遊び」のどちらを好んでいるのかを示したのが表10-1,10-2である。全体的にみると、「戸外」で遊ぶ場合には93.8%の幼児が「動的遊び」を志向しており、反対に「室内」で遊ぶ場合には68.8%の幼児が「静的遊び」を志向し、遊び場所によってその遊び方には有意差が認められた( $p<0.01$ )。

このことから、室内での遊びを志向している幼児であっても、戸外で遊ぶ場合には空間的広がりや、戸外に設置されている遊具等により遊びの質が動的なものに変化していることを示しているが、室内では「静的遊び」が主となり、従って室内での遊びを志向する幼児は必然的に運動・運動遊びに関わる時間が少なくなると推測できる。しかし、それぞれの場所での身体的活動を伴う遊びに費やす時間を検討していないため、今後運動・運動遊びにおける活動量を数値化する必要性が認められた。

表9 遊び場所の志向性

|       | 戸 外 |      | 室 内 |      | 合 計 |       |
|-------|-----|------|-----|------|-----|-------|
|       | n   | %    | n   | %    | n   | %     |
| 年少クラス | 6   | 33.3 | 12  | 66.7 | 18  | 100.0 |
| 年中クラス | 16  | 51.6 | 15  | 48.4 | 31  | 100.0 |
| 年長クラス | 16  | 51.6 | 15  | 48.4 | 31  | 100.0 |
| 全 体   | 38  | 47.5 | 42  | 52.5 | 80  | 100.0 |

表10-1 戸外における遊び方の志向性

|       | 動的遊び |      | 静的遊び |      | 合 計 |       |
|-------|------|------|------|------|-----|-------|
|       | n    | %    | n    | %    | n   | %     |
| 年少クラス | 16   | 84.2 | 3    | 15.8 | 19  | 100.0 |
| 年中クラス | 30   | 96.8 | 1    | 3.2  | 31  | 100.0 |
| 年長クラス | 30   | 96.8 | 1    | 3.2  | 31  | 100.0 |
| 全 体   | 76   | 93.8 | 5    | 6.2  | 81  | 100.0 |

表10-2 室内における遊び方の志向性

|       | 動的遊び |      | 静的遊び |      | 合 計 |       |
|-------|------|------|------|------|-----|-------|
|       | n    | %    | n    | %    | n   | %     |
| 年少クラス | 7    | 36.8 | 12   | 63.2 | 19  | 100.0 |
| 年中クラス | 12   | 38.7 | 19   | 61.3 | 31  | 100.0 |
| 年長クラス | 6    | 20.0 | 24   | 80.0 | 30  | 100.0 |
| 全 体   | 25   | 31.3 | 55   | 68.8 | 80  | 100.0 |

## 2) 遊び場所、遊び方から見た幼児の身体活動性とその分類

幼児の遊び場所や遊び方の志向性から推定した身体活動性得点の分布を表11-1に示した。

0点から得点が高くなるにつれ、幼児の身体活動性が強いことを意味している。全体では、身体活動性の全くみられない0点の幼児が、5.1%とごく少数であったが、身体活動性が低いと考えられる1点の幼児が38%となっていた。逆に、極めて身体活動性の高い幼児(戸外遊びをよくしており、戸外・室内いずれにお



いても動的遊びを好んでいるグループ)は20.3%となっていた。

この得点から、0～1点を身体活動性の低いと考えられる非活動的グループ、2～3点を活動的グループに分類をした。その内訳を表11-2に示した。全体では「非活動的グループ」43.1%、「活動的グループ」57.0%で、活動的な幼児の方が10%程多くなっていた。クラス間に有意差はなく、同様の傾向を示した。

表11-1 幼児の身体活動性得点の分布

|       | 0 点 |      | 1 点 |      | 2 点 |      | 3 点 |      | 合 計 |       |
|-------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|-------|
|       | n   | %    | n   | %    | n   | %    | n   | %    | n   | %     |
| 年少クラス | 3   | 16.7 | 6   | 33.3 | 5   | 27.8 | 4   | 22.2 | 18  | 100.0 |
| 年中クラス | 0   | —    | 11  | 35.5 | 13  | 41.9 | 7   | 22.6 | 31  | 100.0 |
| 年長クラス | 1   | 3.3  | 13  | 43.3 | 11  | 36.7 | 5   | 16.7 | 30  | 100.0 |
| 全 体   | 4   | 5.1  | 30  | 38.0 | 29  | 36.7 | 16  | 20.3 | 79  | 100.0 |

表11-2 幼児の身体活動性の分類

|       | 非活動的 |      | 活動的 |      | 合 計 |       |
|-------|------|------|-----|------|-----|-------|
|       | n    | %    | n   | %    | n   | %     |
| 年少クラス | 9    | 50.0 | 9   | 50.0 | 18  | 100.0 |
| 年中クラス | 11   | 35.5 | 20  | 64.5 | 31  | 100.0 |
| 年長クラス | 14   | 46.6 | 16  | 43.4 | 30  | 100.0 |
| 全 体   | 34   | 43.1 | 45  | 57.0 | 79  | 100.0 |

### 3)運動・運動遊びの相手

幼児が運動・運動遊びをする場合、その相手として誰が多いか1番目の回答についてクラス別に示したのが表12 である。全体的に見ると、「兄弟・姉妹(40.7%)」「友達(33.3%)」「保護者(22.2%)」の順に多くなっていた。この結果から一概にはいえないが、運動遊びを助長する一つの要素として「兄弟・姉妹」の存在が関係していると考えられる。各クラス別では、年中クラスにおいて「友達」が45.1%、「兄弟・姉妹」41.9%、「保護者」が9.7%となり、友達と兄弟・姉妹に遊び相手が集中していたが、クラス間に有意差はなかった。

表12 運動・運動遊びの遊び相手

|       | 友 達 |      | 保 護 者 |      | 兄 弟 ・ 姉 妹 |      | そ の 他 |      | 合 計 |       |
|-------|-----|------|-------|------|-----------|------|-------|------|-----|-------|
|       | n   | %    | n     | %    | n         | %    | n     | %    | n   | %     |
| 年少クラス | 4   | 21.1 | 6     | 31.6 | 7         | 36.8 | 2     | 10.5 | 19  | 100.0 |
| 年中クラス | 14  | 45.1 | 3     | 9.7  | 13        | 41.9 | 1     | 3.2  | 31  | 100.0 |
| 年長クラス | 9   | 29.1 | 9     | 29.0 | 13        | 41.9 | 0     | —    | 31  | 100.0 |
| 全 体   | 27  | 33.3 | 18    | 22.2 | 33        | 40.7 | 3     | 3.7  | 81  | 100.0 |

## 4)運動・スポーツの習い事

表13 は、幼児の運動・スポーツに関わる教室やスポーツ・クラブ等における習い事の実施状況について、その有無をクラス別に示したものである。全体的には半数の幼児が何らかの習い事に通っており、クラス別に見ると「年少クラス」10.5%、「年中クラス」41.9%、「年長クラス」で77.4%の実施状況であった。学年の進行により、その割合は有意に高くなっていた( $p<0.01$ )。特に年長クラスの実施率はかなり高いと判断できる。この背景には、対象幼稚園の保育時間が2～3時間であり、週2日(弁当日)を除き正午前には降園となるため、主に午後の時間を習い事に当てているケースが多いことに起因していると考えられる。

表13 幼児の運動・スポーツの習い事実施状況

|       | 実 施 |      | 非実施 |      | 合 計 |       |
|-------|-----|------|-----|------|-----|-------|
|       | n   | %    | n   | %    | n   | %     |
| 年少クラス | 2   | 10.5 | 17  | 89.5 | 19  | 100.0 |
| 年中クラス | 13  | 41.9 | 18  | 58.1 | 31  | 100.0 |
| 年長クラス | 24  | 77.4 | 7   | 22.6 | 31  | 100.0 |
| 全 体   | 39  | 48.1 | 42  | 51.9 | 81  | 100.0 |

$p<0.01$

## 3.幼児の運動・運動遊びに及ぼす保護者の影響

## 1)運動・運動遊びにおける幼児の志向性と活動性への影響

## ①保護者の関わりと遊び場所の志向性との関係

表14 は、保護者の参加形態が幼児の遊び場所の志向性に影響を与えるかどうかを検討したものである。

その結果、戸外遊びを志向する幼児は、個々の参加形態別にそれぞれ「不参加型」41.7%、「休日参加型」35.3%、「積極参加型」63.3%となり、「積極参加型」と他の参加形態をまとめて比較すると有意差が認められ( $p<0.05$ )、保護者が積極的に幼児の運動・運動遊びに参加している方が、幼児は戸外での遊びをよくしており、保護者の関わりが遊び場所の志向性に影響を与えることが明らかになった。

表14 参加形態と幼児の遊び場所の志向性との関係

|       | 戸 外 |      | 室 内 |      | 合 計 |       |
|-------|-----|------|-----|------|-----|-------|
|       | n   | %    | n   | %    | n   | %     |
| 不参加型  | 5   | 41.7 | 7   | 58.3 | 12  | 100.0 |
| 休日参加型 | 12  | 35.3 | 22  | 64.7 | 34  | 100.0 |
| 積極参加型 | 19  | 63.3 | 11  | 36.7 | 30  | 100.0 |
| 全 体   | 36  | 47.4 | 40  | 52.6 | 76  | 100.0 |

$p<0.05$

## ②保護者の関わりと遊び方の志向性との関係

戸外での遊び方については、その実態で明らかになったように幼児の90%以上が動的遊びを志向しており、参加形態に関わらず同じ傾向を示していた。

表15 は、保護者の参加形態が幼児の室内での遊び方に影響を与えるかどうかを検討したものである。

その結果,保護者の「不参加型」では,すべての幼児が静的遊びを志向していた。また,動的遊びを志向している幼児は「休日参加型」24.2%,「積極参加型」50.0%となり参加形態によって有意差が認められ( $p<0.01$ ),保護者が積極的に幼児の運動・運動遊びに関与しているほど,幼児は室内においても動的遊びを志向しており,幼児の遊び方に保護者の関わりが影響していることが明らかになった。

表15 参加形態と幼児の遊び場所の志向性(室内)との関係

|       | 動的遊び |      | 静的遊び |       | 合 計 |       |
|-------|------|------|------|-------|-----|-------|
|       | n    | %    | n    | %     | n   | %     |
| 不参加型  | 0    | —    | 13   | 100.0 | 13  | 100.0 |
| 休日参加型 | 8    | 24.2 | 25   | 75.8  | 33  | 100.0 |
| 積極参加型 | 15   | 50.0 | 15   | 50.0  | 30  | 100.0 |
| 全 体   | 23   | 30.3 | 53   | 69.7  | 76  | 100.0 |

$p<0.01$

### ③保護者の関わりと活動性との関係

表16 は,保護者の参加形態が幼児の活動性に影響を与えるかどうかを検討したものである。

その結果,保護者の参加形態より「不参加型」の幼児の活動性は,「非活動的」が58.3%,「活動的」が41.7%,同様に「休日参加型」は54.5%,45.5%で不参加型と類似していたが,「積極参加型」についてはそれぞれ26.7%,73.3%となり,参加形態によって幼児の活動性に有意差が認められた( $p<0.05$ )。つまり,保護者が平日を含めて積極的に子どもの運動・運動遊びに参加することが,子どもの活動性に影響を与えていると検証できた。

表16 参加形態と幼児の活動性との関係

|       | 非活動的 |      | 活動的 |      | 合 計 |       |
|-------|------|------|-----|------|-----|-------|
|       | n    | %    | n   | %    | n   | %     |
| 不参加型  | 7    | 58.3 | 5   | 41.7 | 12  | 100.0 |
| 休日参加型 | 18   | 54.5 | 15  | 45.5 | 33  | 100.0 |
| 積極参加型 | 8    | 26.7 | 22  | 73.3 | 30  | 100.0 |
| 全 体   | 33   | 44.0 | 42  | 56.0 | 79  | 100.0 |

$p<0.05$

### 2)運動・運動遊びにおける幼児の遊び相手への影響

表17は,保護者の参加形態が幼児の遊び相手に影響を与えるかどうかを検討したものである。

その結果,いずれの参加形態においても「友達」の割合はほぼ同じであったが,「積極参加型」では,保護者を遊び相手としている割合が他の形態よりも約2倍高くなり,それとは逆に「不参加型」と「休日参加型」では,兄弟・姉妹を遊び相手としているのが,それぞれ53.8%,44.1%となり「積極参加型」よりも2倍程度高くなっていた。有意差は認められなかったものの,保護者の関わりが少なければ兄弟・姉妹に影響しているという特徴が示唆された。

表17 参加形態と幼児の遊び相手との関係

|         | 友 達 |      | 保 護 者 |      | 兄 弟 ・ 姉 妹 |      | そ の 他 |     | 合 計 |       |
|---------|-----|------|-------|------|-----------|------|-------|-----|-----|-------|
|         | n   | %    | n     | %    | n         | %    | n     | %   | n   | %     |
| 不 参 加 型 | 4   | 30.8 | 2     | 15.4 | 7         | 53.8 | 0     | —   | 19  | 100.0 |
| 休日参加型   | 12  | 35.3 | 5     | 14.7 | 15        | 44.1 | 2     | 5.9 | 34  | 100.0 |
| 積極参加型   | 11  | 36.6 | 10    | 33.3 | 8         | 26.7 | 1     | 3.3 | 30  | 100.0 |
| 全 体     | 27  | 35.1 | 17    | 22.1 | 30        | 39.0 | 3     | 3.9 | 77  | 100.0 |

## 3)運動・スポーツの習い事への影響

表18 は、保護者の参加形態が幼児の運動・スポーツの習い事に影響を与えるかどうかを検討したものである。

その結果、参加形態によって有意差は認められず、運動・スポーツの習い事に保護者の運動・運動遊びへの関わり方は影響していないことがわかった。運動・スポーツの習い事への幼児期からの参加に対しては、その是非を含め各方面で様々な議論がなされているところではあるが、幼児が主体的に習い事を行っているのか、幼児の意に反して保護者の視点から習わせているのか、幼児の運動・運動遊びに与える保護者の関わりとして、大きな影響を持っている要素と捉えていたが、習い事参加への意図について探究することは今後の検討課題としたい。

表18 幼児の運動・スポーツの習い事実施状況

|         | 実 施 |      | 非 実 施 |      | 合 計 |       |
|---------|-----|------|-------|------|-----|-------|
|         | n   | %    | n     | %    | n   | %     |
| 不 参 加 型 | 7   | 10.5 | 6     | 89.5 | 13  | 100.0 |
| 休日参加型   | 16  | 41.9 | 18    | 58.1 | 34  | 100.0 |
| 積極参加型   | 13  | 77.4 | 17    | 22.6 | 30  | 100.0 |
| 全 体     | 36  | 48.1 | 41    | 51.9 | 77  | 100.0 |

## IV まとめ

本研究では、幼児期の運動・運動遊びにおいて、保護者の関わりの実態を明らかにし、その関わり方と幼児の運動・運動遊びとの関連性やその及ぼす影響について検討するために、佐賀大学文化教育学部附属幼稚園全園児の保護者を対象とした質問紙調査を行った。保護者及び、幼児の実態把握、関連性の検討には、幼児の運動・運動遊びへの保護者の関わり(参加形態)、保護者の属性(運動・スポーツへの意識と定期的実践)、幼児の運動・運動遊びの実態(遊びの志向性①遊び場所②遊び方、遊びの相手、運動・スポーツの習い事)、そして幼児の活動性についての分析結果を用いた。その結果、以下の点が明らかとなった。

1. 幼児の運動・運動遊びへの保護者の関わりについては、保護者が幼児と一緒に遊ぶかどうかの頻度によって「不参加型」、「休日参加型」、「積極参加型」に分類され、主に「休日参加型」、「積極参加型」の保護者が多かったが、全く子どもの遊びに関与していない保護者も全体で16.9%となっていた。それらの参加形態によって、保護者本人の運動・スポーツの実施意識には違いがあり、積極的に子どもの遊びに関わっているほど運動・スポーツの実施に好意を示していた( $p < 0.05$ )。また、本人の定期的な運動・スポーツ実施は子どもの運動・運動遊びへの関わり方と関連がなかった。

2. 幼児の運動遊びの実態については、遊び場所の志向性は戸外、室内がほぼ2分の1に分かれた。遊び方の志向性では、戸外で遊ぶ場合には幼児のほとんどが動的遊びをよくしており、室内では静的な遊びを志向するものが多くなっていた。幼児の遊び場所、及び遊び方から求めた幼児の身体活動性では、戸外遊びをよくしており、戸外・室内いずれにおいても動的遊びをよくしている身体活動性の特に高いものが20.3%、反対に静的遊びが中心の活動性の低い幼児が約40%になっていた。また、幼児の運動・運動遊びに関わる遊び相手は、「兄弟・姉妹(40.7%)」、「友達(33.3%)」、「保護者(22.2%)」の順に多くなっていた。運動・スポーツの習い事に関しては、全体で約半数の幼児が習い事に通い、学年の進行によりその割合は高くなっていった( $p<0.01$ )。特に年長クラスでの実施率は77.4%とかなり高率であった。

3. 保護者の参加形態が、幼児の運動・運動遊びに影響を及ぼしていたのは、遊び場所の志向性( $p<0.05$ )、室内での遊び方の志向性( $p<0.01$ )、幼児の活動性( $p<0.05$ )であった。すなわち、保護者が積極的に幼児の運動・運動遊びに参加していると、幼児は活動的な戸外での遊びを行い、室内においても動的な遊びをよくすることがわかり、幼児の活動性が高まることが示唆された。

以上より、幼児の運動・運動遊びへの保護者の関わり方によって、幼児の活動性に影響を与えることが判明した。言い換えれば幼児の運動・運動遊びを増幅させるには、幼児教育での取り組みが重要であるのと同様に、保護者自身が運動やスポーツに対し理解、好意を持ち、幼児と一緒に体を動かすことや運動遊びを通じて幼児と接する機会を増やすことが、「運動遊び好き」の幼児を育てていく鍵になると思われる。

但し、本研究における分析対象数が少数であったことから、分析結果については、一般的な論究には限界があり、分析対象幼稚園における特性として解釈することが妥当と考えられる。また、いくつか残された課題もあり、幼児の活動性に関して多様な視点から今後検討を加えていきたい。

本研究の実施にあたり、調査にご協力頂きました保護者の皆様に深く感謝いたします。

## 文献

- 1) 武藤芳照他,子どもの成長とスポーツのしかた,築地書館,1985
- 2) 吉岡清香,親の運動の好き,嫌いが幼児の遊びに及ぼす影響について,  
福山市立女子短期大学紀要14,pp65-72,1988
- 3) 秋山和夫他監,生田清衛門・秋山俊夫編,教育・保育双書第13巻内容領域健康,  
北大路書房,1993
- 4) 宇土正彦監,畠山倫子編,幼児の健康と運動遊び,保育出版社,1999
- 5) 文部省,幼稚園教育要領解説,1999
- 6) 山本理絵,保育園・幼稚園と小学校の教育の関連に関する研究,児童教育学科論集31,  
pp32-54,1997